公益社団法人　信和会

看護奨学生だより

2026年2月号

公益社団法人信和会　看護部長　鴨川聡子

先日（１月下旬）に、民医連のトップ看護管理者が集まる全国会議に参加しました。その時の学習講演の内容は、日本における看護の先駆者であり、明治のナイチンゲールと言われた大関和さんと鈴木雅さんのお話でした。お二人は、激動の社会の中で時には強き者と戦い、日本の職業としての看護の基礎をつくられました。感染症対策でも活躍され、後に「当時の医療水準からから考えればこれは奇蹟とも言うべきで、いかに看護の力が大きかったのかを物語っている」とも言われました。この二人のナースの物語がNHKの前期（2026年３月30日～予定）の連続テレビ小説「風、薫る」で取り上げられます。ドラマですので、多少の脚色はあると思いますが、現在の看護師のおおもとである二人のナースの物語、日本の看護の歴史を知る意味でも視聴してみてはいかがでしょうか。

京都民医連あすかい病院 事務長　小林智裕

突然の衆議院選挙（２月８日）が終わり、締切を過ぎて文章を書いています。

私達、民医連は平和が何よりも大切だと考えています。勝手に平和は来てくれません。自分たちの手で守って行かなければなりません。今の首相は憲法改正（改悪）の議論をすすめ、平和でなく軍備にお金を使おうとしています。その一方で医療や介護、社会保障が後退させられようとしています。ケアワーカーがもっと大切にされる社会が当たり前になってほしいですね。民医連は憲法、いのち、民医連綱領がモノサシです。平和で地域で安心して暮らせる社会の健康もみなさんとご一緒に守っていきたいですね。

看護師の眼から患者さんだけでなく、地域、社会を見つめる時間をぜひ作ってください。

京都民医連あすかい病院　副看護部長　谷淵未生

まだまだ寒い毎日が続いていますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。今年の冬、病院内では、インフルエンザ、新型コロナ、ノロウイルスとさまざまな感染症が流行し、苦慮しています！実習に来られていた学生のみなさんにはご心配をおかけしました。病院内では患者さん、周囲の人、ご自身を感染症から守ることが求められています。全職員が基本的な感染対策行動ができるように、感染管理認定看護師として活動をしています。感染対策の基本は「手指衛生」。実習の時は、入室前、清潔操作の前、汚染時、患者さんに触れた後、患者環境に触れた後、の５つのタイミングで手指衛生を頑張りましょう。日常生活でも、帰宅時、食事前、汚染時の手指衛生をして、ご自身を守り感染症の流行しやすい冬の季節を乗り越えましょう！

京都民医連あすかい病院　副看護部長　物部理奈

寒さの中にも春の気配を感じる２月。体調は大丈夫でしょうか。卒年生にとっては看護師国家試験、他の学年のみなさんにとっては実習や試験が続く大切な時期ですね。思うようにいかず不安になることもあると思いますが、これまで積み重ねてきた学びと努力は、必ず力になります。自分を信じて、春に向かって一歩ずつ前に進んでくださいね。看護師として、みなさんを心から応援しています。

法人・病院の取り組み紹介

国境を越えて学び合う、いのち支える医療介護

12 月 11 日（木）・12 日（金）に韓国・新川連合病院の職員 5 名が来日し、京都民医連あすかい病院および関連事業所を訪問見学しました。「いのちとくらしを支える医療・介護」を実践する民医連事業所の医療介護を通じて、学び交流し合うことを目的に行われました。

病院正面玄関にて☆
みんなで集合写真→

←院長によるオリエンテーション！

あすかい病院では、中川院長との懇談の後、緩和ケア病棟や透析室、地域医療連携室、まちづくりセンター、リハビリテーション部などを見学。翌日には、参加者の職種ごとに訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ・居宅介護支援事業所の訪問同行を実施したり川端診療所の見学をしたりしました。介護医療院「茶山のさと」では、医療と介護が連携し、利用者の生活を大切に支える現場を見学しました。

韓国ではまだまだ訪問診療といった在宅医療が日本ほど普及していない現状にあるとのことです。その元で、往診センターとの懇談を通して、「日本と韓国の在宅医療の未来に向けて」をテーマに懇談を実施。日本と韓国の在宅医療の現状や課題、未来について語り合いました。

お別れの際に「次は是非韓国での我々の実践している医療介護を見に来てください」との言葉をいただき握手を交わしました。あすかい病院の日常が、国境を越えての「新たな学び」に繋がった機会でした。

病棟見学→

←往診センターとの懇談

まちづくりセンター

透析センター

リハ室

冬の中学生ナース体験を開催しました！

昨年 12 月 26 日（金）、「中学生ナース体験」を実施しました！
２回目となる今年は、１年生から３年生まで 20 名の学生さんが参加してくれました。
「看護師になりたい！」という子から「色んな仕事を知りたい」という子まで、みんな真剣な表情で取り組んでくれました。

＜当日のプログラム＞
- 看護技術体験（模擬採血・お薬のミキシング）
- 院内見学(病棟紹介・車椅子体験・患者さんや医師との交流)
- 現役看護師との交流・質問タイム

病院の中を回っているとき、看護師さんたちが患者さんに寄り添っていたのが印象的だった。とても楽しかった。医療系の仕事に就きたいなと思った。

感想

質問タイムで、皆さんが楽しそうに仕事のことを語っていて、すごくやりがいが伝わりました。特に印象に残ったのは採血体験です。医療技術の進歩を感じました。勉強は苦手ですが、頑張って看護師になって楽しい仕事をしたいです。

今までドラマでみていたよりも凄く複雑で、大変な仕事だということが分かりました。本当はもっと、患者さんに寄り添う仕事だということを実際の看護師さんや医師、患者さんに聞いて身をもって体験することができました。

情報システム部

法人情報システム部は、医療・介護の現場を“そっと支える縁の下の力持ち”として、電子カルテをはじめとした各種 IT システムの運用・改善に日々取り組んでいます。
現場の「困った」を素早くキャッチし、「助かった」と笑顔が返ってくる瞬間が私たちのエネルギー源です。時には機械よりも人のほうがフリーズしそうになる場面もありますが、チームの知恵とユーモアで乗り越えています。
これからも安心・安全な医療・介護を IT で支えていきます。

あすかい病院　キラっと看護の紹介

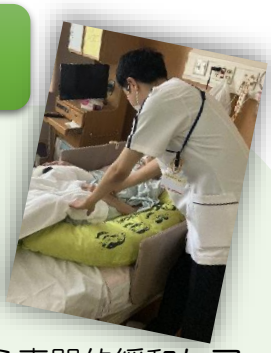
回復期リハビリテーション病棟　英語の挨拶が繋いだ心

朝、お部屋に伺うと、いつもお布団に潜り込んで怒っていた患者さん。「家ではお昼まで寝てるの！」「朝ごはん食べてないわよ！」と、なかなか起きてくれません。お薬も点滴も水を飲むのも拒否感が強く、頭を悩ませていました。

そんなある日、看護師が、彼女が大切にしているプーさんのぬいぐるみに「ハニー」と英語で話しかけていたのを目撃。「どうして英語で話しかけているのですか？」と話を聞いてみると、実は旦那さんが 1970 年の大阪万博で海外の方を相手にお仕事をされていたそうで、その影響で彼女も英語が少し話せるのだと教えてくれました。

そこで翌朝、いつもの「おはようございます」ではなく、思い切って「グッドモーニング！」と声をかけてみました。 すると、彼女はいつもよりスッと起きてくれたのです。そこからは、嫌がっていた点滴もきちんと説明すると腕を貸してくださるようになり、お薬も飲んでくれるように。「毎日お水は 800ml 飲んでね」という約束も、今では一生懸命守ってくださっています。意外なところに介入の糸口がありました。その方の好きなもの、得意なこと、大切にしてきた文化。そんな「意外な糸口」を見つけるアンテナこそが、質の高い看護に繋がるのだと再確認したエピソードです。

南３緩和ケア病棟の紹介



あすかい病院南３病棟は、終末期の癌患者様が入院する 21 床の緩和ケア病棟です。

他の治療では対処できない複雑な問題を抱える方に対して、より専門的な知識を持ち、適切な訓練を積んだ医師・看護師・ソーシャルワーカー・その他の　専門家を含めた多職種によるチームアプローチを実践しています。

卒後 １ 年目や新たに配属される職員は、院内の基礎教育研修を受けながら専門的緩和ケアを先輩や医師から日々学び、１ 人 １ 人の命と向き合い、丁寧に患者様やご家族の希望をつないでケアにあたっています。また当病棟では「患者さんが困難に直面しながらも、自分らしく生きることができるように私たちは応援します」を軸に、次の４ つを大切にし、日々のケアを行っています。

１つめは、予後予測すること
２つめは、その人に現状と今後の見通しを説明し、その後、共にどうするかを考えること
３つめは、苦痛を緩和すること
４つめは、家族もケアすること

その為のアプローチとして、全人的ケア・チームアプローチ・コミュニケーション・ベースドアプローチを大切に、日々多職種で対話を重ね、患者様が生ききる事ができるよう、ともに伴走している病棟です。